

第3学年 社会科 学習指導案		日時	平成30年6月22日(金) 第5校時
単元名	2つの世界大戦と日本	学年・組	第3学年B組
		人数	男子11名 女子9名 計20名
指導者	安井盛一	場所	視聴覚教室

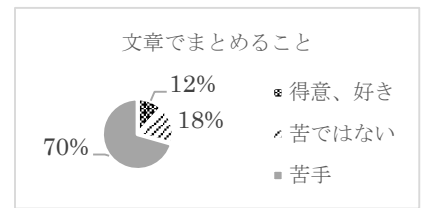
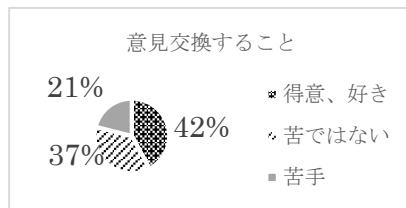
1 単元観

本単元では、第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結までの我が国と世界の動きについて扱う。新学習指導要領では、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現と第二次世界大戦と人類への惨禍に係る知識とともに、近代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察する思考力・判断力・表現力を育成することが求められている。

近代史に係る資料が豊富であり、1つの歴史的事項に対する評価も、立場や資料の解釈の仕方の違いによって多様に存在している。したがって、今単元は、生徒が抱く疑問を解決するために調べ学習を行ったり、評価が分かれる学習課題について意見交換を行ったりして歴史的事項に係る理解を深める学習に適していると考えられる。

2 生徒観

本学級の生徒の本単元に関する予備知識を調査したところ、約半数の生徒が肯定的に回答したのは「原爆が投下された理由を大まかに説明できる」という設問だけであり、「原爆投下の日時を正確に答えられる」等、本単元の歴史的事項に係る大部分の設問について肯定的に回答した生徒は3割未満であった。また、本学級の生徒の課題解決型の学習に係る意識調査によると、本学級の生徒は、社会的事象から疑問を見出し課題設定したり、学習課題の答えを予想したりする課題発見に係る学習活動については、70～80%の生徒が苦手ではないと回答している。学習課題について調べることについては、95%の生徒が苦手ではないと回答しており、知的好奇心は高いと言える。しかし、意見交換することを得意とする生徒は42%（ほとんど男子）であり、意見交換が一部の生徒に限られがちである。文章でまとめたりする課題解決に係る学習活動については、70%の生徒が苦手であると回答している。その原因として、「学習課題を協働的に解決できた」という達成感や充実感を味わう学習体験が不足していたり、調べたことと学習課題とのつながりを整理・分析する学習や調べてわかったことを文章で表現する方法に係る学習が不足していたりしていることが考えられる。さらに、調べること以外の項目では、得意であると回答した生徒はほぼ40%以下であり、課題発見・解決型の学習に対して苦手意識を持っている可能性がある。その原因の主なものとして、これまで行ってきた小集団学習において個々の意見が十分に出し合えなかったり、一斉学習において一部の生徒の意見交換に留まり生徒一人一人の考えを出し合わせる場が十分保障されていなかったりすることが挙げられる。



3 指導観

指導にあたっては、2つの世界大戦に係る日本や世界の動きを大観させられるよう、単元に関する生徒の疑問をもとに単元を通しての学習課題とそこに至るまでの時間軸に沿った小課題を設定するようにする。そして、小課題に関する歴史的事項を4～6つ提示し、それぞれのあらまし（知識）をつかませるために、大部分の生徒が得意とする調べ学習を取り入れる。その際、班ごとに調査事項を分担したり、ジグソー学習により班内で分担したりすることにより、調査後に全員が発表できるように工夫する。また、主に教科書、資料集や図書室の文献で調べさせ、要点をノートにまとめさせることにより、書くことに対する抵抗感を少しずつ取り除いていけるようにしたい。単元を通しての課題については、2項対立の形式で設定し、全員にいずれかの立場を選択させるようにする。その際、歴史の実際に沿った立場を選択する生徒が多くなると考えられるので、あえて逆の立場で考えさせられるよう補助発問を工夫したい。さらに、自分の考えを書くことへの抵抗感を減らすようにするため、生徒のノート等への記述内容に対する評価を正誤の視点に偏らないよう丁寧に行う。

4 単元構想

めざす姿

- ★過去を継承しつつ、現在に生きる自分の視点から歴史に問いかけようとする態度を養う。
- ★主体的に歴史上の人物や出来事を調べようとする意欲を高める。

目標	単元の課題 「2つの世界大戦と日本」(15時間扱い)				
	学習課題・発問	生徒の学習活動	評価規準	評価方法	
<p>探究する</p> <p>生かす 振り返る</p> <p>思考</p> <p>伝え合う まとめる</p> <p>知識 単元の構成</p> <p>探究する</p> <p>技能</p> <p>つかむ</p> <p>関心</p>	<p>◎単元を振り返ろう(1)</p> <p>↑</p> <p>◎世界大戦に係る評価・交流(2)</p> <p>「それでも戦争を止めるためには、どうすればいいのだろうか？」</p> <p>「第二次世界大戦を防ぐことはできなかったのだろうか？」</p> <p>↑</p> <p>◎第二次世界大戦の原因に係る調査(4)</p> <p>「世界と日本の出来事を中心に、分担して調べよう！」</p> <p>「なぜ2回目の世界大戦が起こったのだろうか？」</p> <p>↑</p> <p>◎世界大戦の背景・影響に係る調査(4)</p> <p>「世界と日本の出来事を中心に、分担して調べよう！」</p> <p>「第一次世界大戦によって、何がどう変わったのだろうか？」</p> <p>↑</p> <p>◎2つの世界大戦に係る調査(2)</p> <p>「分担して調べよう！」</p> <p>「2つの世界大戦はどのような戦争だったのだろうか？」</p> <p>↑</p> <p>◎単元の概要・課題設定(2)</p> <p>「“もっと知りたいこと”を整理して単元の学習課題をつくらう！」</p> <p>「2つの世界大戦が起こった時期について、どんなことを“もっと知りたい”ですか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習を振り返り、今後の歴史学習において大切にしたい視点について、自分の言葉でまとめる。 ・他者の見方・考え方をつかむ。 ・調査内容をもとに、第二次世界大戦を防ぐことが出来たか判断する。 ・第一次世界大戦後の主な歴史的事項について、分担して調べる。 (世界) 世界恐慌, ファシズムの台頭 (日本) 満州事変, 五・一五事件, 二・二六事件, 日中戦争 ・第一次世界大戦後の主な歴史的事項について、分担して調べる。 (世界) ベルサイユ条約, ロシア革命 (日本) 大正デモクラシー 社会運動 大戦景気 ・自分のノートに整理する。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦とを比較して考えられるよう、調べたことをノートにまとめる。 ・単元の学習課題をつくる。 ・単元の内容について、疑問を出し合う。 ・既習事項を年代順に整理し、単元に関する主な歴史的事項を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結までのできごとについて、意欲的に追究している。(関・意) ・調査内容をもとに、多面的・多角的に考察し、判断している。(思・判) ・文献、統計・グラフなどの様々な資料を収集し、考察したことをまとめている。(技) ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の歴史のあらましを世界の動きと関連づけて理解している。(知) ・文献、統計・グラフなどの様々な資料を収集し、まとめたり説明したりしている。(技) ・第一次世界大戦前後の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解している。(知) 	<p>発言 ノート</p> <p>発言 ノート</p> <p>授業観察 ノート</p>	
	生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代に係る歴史的事項の定着状況はきわめて低い。 ・約3割の生徒が、予想、資料整理等、資料を活用する考察を苦手としている。 ・9割以上の生徒が、調べるのが苦手とは感じていない。 ・意見交換が好きな生徒は男子の方が多く、男子を中心に意見交換が進みがちである。 ・約7割の生徒が学習内容を文章でまとめることに抵抗がある。 ・概して、課題発見・解決学習が得意な生徒は少ない。 			

本校で育成する資質・能力
【自己理解】

他者と意見交換することを苦手とする生徒が多い。自分の意見発表により、意見交換の面白さを味わわせ、自信を持たせたい。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

第二次世界大戦を防ぐことは出来なかったのかについて意見交換をすることを通して、2つの世界大戦を多面的・多角的に考察することの大切さに気付かせる。

6 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (◇) (◆)「努力を要する」と判断した生徒への手立て	評価規準 〔観点〕(評価方法)
0 本時のめあてを確認する。	◇学習係に発表させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <めあて> 思考 他者の意見を参考にして、課題に対する自分の意見をまとめる。 </div>		
1 咲く咲く復習(1分間復習)をする。 ・前時に出された意見の想起 ① 国際的に孤立した。 ② 他国の領地を奪おうとした。 ③ 世界恐慌で国の経済が混乱した。 ④ 戦争に関する軍事同盟を結んだ。	◇素早く取り掛かるよう促す。 ◆想起できない生徒には、TV画面で前時の板書を提示する。 ◇前時に出された以外の要因を考えてきた生徒に発表させる。(ベルサイユ条約でドイツに責任が押し付けられた。)	
2 学習課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> <学習課題> 2回目の世界大戦を防ぐことはできなかったのか? </div>	
3 意見を発表する。	◇少数の立場から意見発表させる。	
防げなかった<予想される理由付け> ・国内に資源がなかったら、ある所から奪い取るしかなかった。 ・自国民を守るためには、ブロック経済や武力で対抗するのは当然だ。 ・日本では軍部に反抗したら処罰されるから、「No」とは言えない。	防ぐことができた<予想される理由付け> ・日本は国際連盟を脱退せず、他国と協力する。 ・イギリスやフランスは、豊かな資源を他国に分ければよい。 ・ソ連の良い点をタコも取り入れればよい。	
◆発表が出ない場合は指名する。 ◇根拠に基づく意見発表に対しては、肯定的に評価する。		
4 質問・意見を発表する。	◇時間枠を指定して質問・意見を発表させる。	
5 意見の対立点について意見を発表する。	◇意見の対立点を示す。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <予想される対立点> ・どうして資源のある国は、ない国に分け与えないのか。 ・資本主義の国は、世界恐慌の影響を受けない社会主義を取り入れなかったのか。 ・それでも戦争を止めたい。本当に方法はないのか。 ・自国民を守るという理由があれば戦争はしてもいいのか。 </div>		
◆発表者が偏った場合は、班で話し合わせる。		
3 本時の学習を振り返り、まとめをノートと評価シートに記入する。	◇全体交流で出された見方や考え方を参考に、自分の意見をノートに書かせる。 ◇代表生徒にまとめを発表させる。	(思考) ・ 他者の意見を参考に 、自分の考えをすらすらとノートに書いている。 (5分間で100文字以上)

主発問 第二次世界大戦を防ぐことは出来なかったのだろうか？

生徒の考え 防げなかった

生徒の考え 防げた

ア国内に資源がないのなら、他国から奪い取るし
かないと思う。(日本、ドイツ)
イ軍部の発言力を認めていたのだから、リーダー
に従うのは当然ではないか。(日本、ドイツ)
ウ軍部に反抗したら罰せられるから、いけないと
思っても言い出せないと思う。(日本)
エ自国の国民を守るのが最優先になるから、プロ
ック経済をするのは仕方ないと思う。(イギリ
ス、フランス)
オどの国も、国内には自国の都合のいい情報しか
流さないから、国民は本当のことがわからない
と思う。
カ一度戦争になったら、どちらの国の言い分が正
しいか分からなくなる。(日本、アメリカ)

実際の動きを支持する生徒
の方が多いであろう。

a 植民地を持ったり、植民地を広げようとするから
戦争になる。国内を充実させるような政治をする
よう考え方を変えていけば戦争にはならないと
思う。(日本)
b 国際連盟を脱退せず、他国と話し合っていけば戦
争にはならない。(日本、ドイツ)
c 軍部の暴走を止め、大正デモクラシーを守るよう
な政治を続ければよい。(日本)
d 世界の半数以上を生産していたアメリカは、困っ
ていたドイツに物資を分けてあげればよかつた
と思う。(アメリカ)
e 地下資源などが多くあるイギリスやフランスは、
困っている国に分けるべきだったと思う。(イギ
リス、フランス)
f ソ連の社会主義のいいところを、他国も取り入れ
ればよかつたのではないかと。

深める発問 資源のある国は自国民を守るために他国からの輸入品に高い関税をかけ、その
ため資源のない国は自国民を守るために他国に侵略して武力で資源を奪い取った。いずれも自国
民を守るためだから正当化されるのか？

生徒の考え①
両方とも正当化でき
る。

生徒の考え②
関税をかけた方に
問題がある。

生徒の考え③
武力侵略した方に
問題がある。

生徒の考え④
両方とも正当化で
きない。

① と④が多くなるであろう。

深める発問 それでも戦争を防ぐためには、どうしたらよいか？

生徒の考えA
日本は国際連盟に復帰して、戦
争にならないように話し合っ
ていくべきだった。

生徒の考えA'
日本がリードして、ドイツ、イ
ギリス、フランス、アメリカな
どの国々で首脳会議を開く。

生徒の考えB
世界恐慌で困っている国に
積極的に物資を援助する。

生徒の考えD
国民の相互交流を活発に行う。

生徒の考えC
日本は大国主義をやめアジアの
国々と協力する。